

2019年 人骨の会連続フィールドワーク 第4回

陸軍登戸研究所

～第九陸軍技術研究所～

日時 11月9日(土) 12時50分集合 13時出発

集合 小田急小田原線 生田駅改札口前

資料代 500円

連絡先(要予約) 080-3157-1858(鳥居) jinkotsu731@yahoo.co.jp

参加ご希望の方は、電話またはメールにて、必ずお名前、ご住所をお知らせください

登戸研究所は、秘密戦兵器・資材を研究・開発していた。正式名称は第九陸軍技術研究所。「登戸研究所」と秘匿名でよばれていた。アジア太平洋戦争において秘密戦の中核を担っており、軍から重要視された研究所で、終戦とともに閉鎖された。(明治大学登戸研究所資料館ホームページより)

1936年、傀儡国家「満洲国」内には731部隊が開設され、日本国内には新宿にあった陸軍科学研究所で電波兵器の開発が始まる。翌年、物理・化学的な秘密兵器の開発のために登戸に実験場が開設する。日中戦争が開始されるのはその後のことである。1940年に登戸研究所で偽札製造が始まる。それは誰が使うのか? 1938年に開設された後方勤務要員養成所は、この年の8月、陸軍中野学校と改称される。前回のフィールドワークで陸軍中野学校と登戸研究所の関係について質問があったが、十分に答えられなかった。今回はそのアンサー企画でもある。



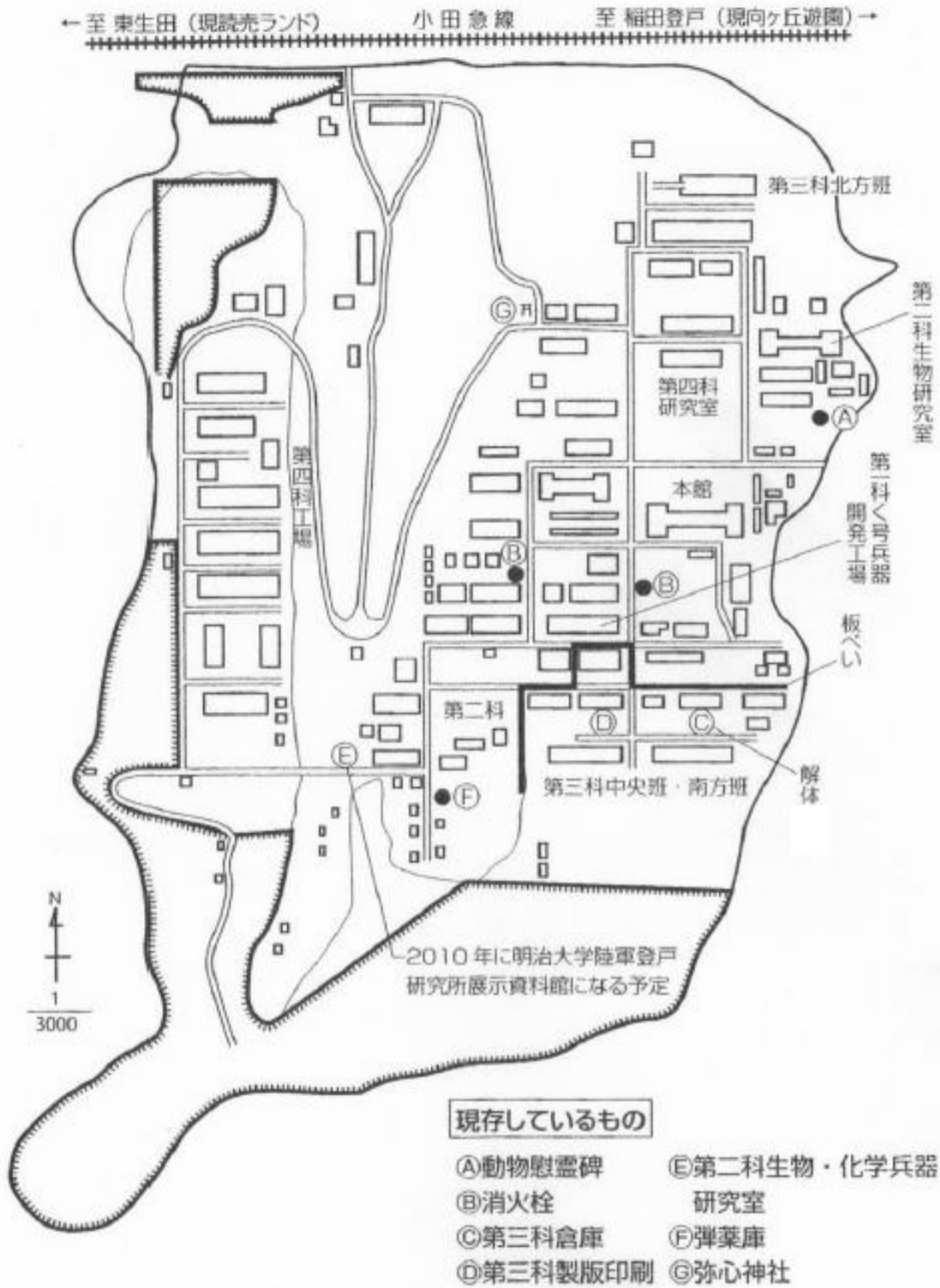
登戸研究所資料館(旧第二科研究室)

主催 軍医学校跡地で発見された人骨問題を究明する会

連絡先 080-3157-1858(鳥居)

E-mail jinkotsu@yahoo.co.jp

陸軍登戸研究所の建物配置図（1944年）



（『川崎市多摩農業協同組合史』の原図を参考に渡辺賢二作成）



動物慰霊碑



消火栓



登戸研究所跡碑



731部隊で使用された石井式濾水機



弾薬庫址



弥心神社

第二科総括班長・伴繁雄さんの、長野の自宅に大量にあった